

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名 東九州自動車道 志布志～末吉財部	事業区分 高速自動車国道	事業主体 国土交通省九州地方整備局
起終点 起点：鹿児島県志布志市志布志町志布志 終点：鹿児島県曾於市末吉町深川	延長 48.0km	
事業概要 東九州自動車道は、北九州市を起点に大分県、宮崎県を経て鹿児島市に至る延長約436kmの高速自動車国道である。本道路は九州の高速道路ネットワークの一部を形成することにより、大隅地域へのアクセス強化や物流の効率化による地域産業の活性化に寄与するものである。		
H9年度事業化	H8年度都市計画決定	H12年度用地着手
		H14年度工事着手
全体事業費	約1,379億円	事業進捗率
		49%
計画交通量	5,400～18,600台/日	
費用対効果分析結果	B/C (事業全体)	1.3
	(残事業)	2.6
総費用	(残事業)/ (事業全体)	592/1,437億円
総便益	(残事業)/ (事業全体)	1,548/1,850億円
	（事業費：504/1,316億円）	（走行時間短縮便益：1,220/1,468億円）
	（維持管理費：88/121億円）	（走行経費減少便益：193/235億円）
		（交通事故減少便益：135/147億円）
感度分析の結果 【事業全体】交通量：B/C=1.1～1.5（交通量±10%） 事業費：B/C=1.2～1.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.2～1.4（事業期間±20%）		
【残事業】交通量：B/C=2.2～3.1（交通量±10%） 事業費：B/C=2.5～2.8（事業費±10%） 事業期間：B/C=2.4～2.9（事業期間±20%）		
事業の効果等 ①物流の効率化を支援 ・九州縦貫自動車道と接続することで高速道路ネットワークが形成 ・志布志港から各肥育場へ供給される配合飼料の輸送効率化による農畜産業の活性化 ②観光地へのアクセス向上 ・観光地間のアクセス性が向上し、観光周遊の可能性の拡大および地域の観光産業の進展を支援 ③救急医療活動の支援 ・曾於郡医師会立病院（二次救急医療施設）～鹿児島市立病院（三次救急医療施設）までの搬送時間が短縮 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮 ④地域経済の活性化を支援 ・沿線工業団地から高速道路ICまでのアクセス性が向上 ⑤広域的防災に資する道路ネットワークの強化 ・大規模災害時における物資輸送ルートの多重化		
関係する地方公共団体等の意見 鹿屋市をはじめとする関係首長及び議会議長等で構成される大隅総合開発期成会（会長：鹿屋市長）等により早期整備の要望を受けている。（平成23年7月）		
県知事の意見 「対応方針（原案）」案の「継続」については、異存ありません。引き続き、早期完成に向け、所要の予算を確保されたい。		
事業評価監視委員会の意見 審議の結果、事業継続		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 沿線地域の交通量に大きな変化はないものの、沿線地域における一世帯あたり自動車保有台数は年々増加（1.98～2.26台/世帯：平成22年時点）しており、鹿児島県平均の1.73台/世帯を上回っている。		
事業の進捗状況、残事業の内容等		

平成22年度末の事業進捗率は事業費ベースで約49%であり、そのうち用地進捗率は約74%に達している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

今後は地元や関係機関との協力体制のもと、事業効果を早期発現できるよう、引き続き用地買収を促進するとともに、残区間の早期供用に向けて事業推進を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

補強土壁工法によって、新技術である大型パネル、幅広補強材を使用することで設置手間を削減【約0.08億円】

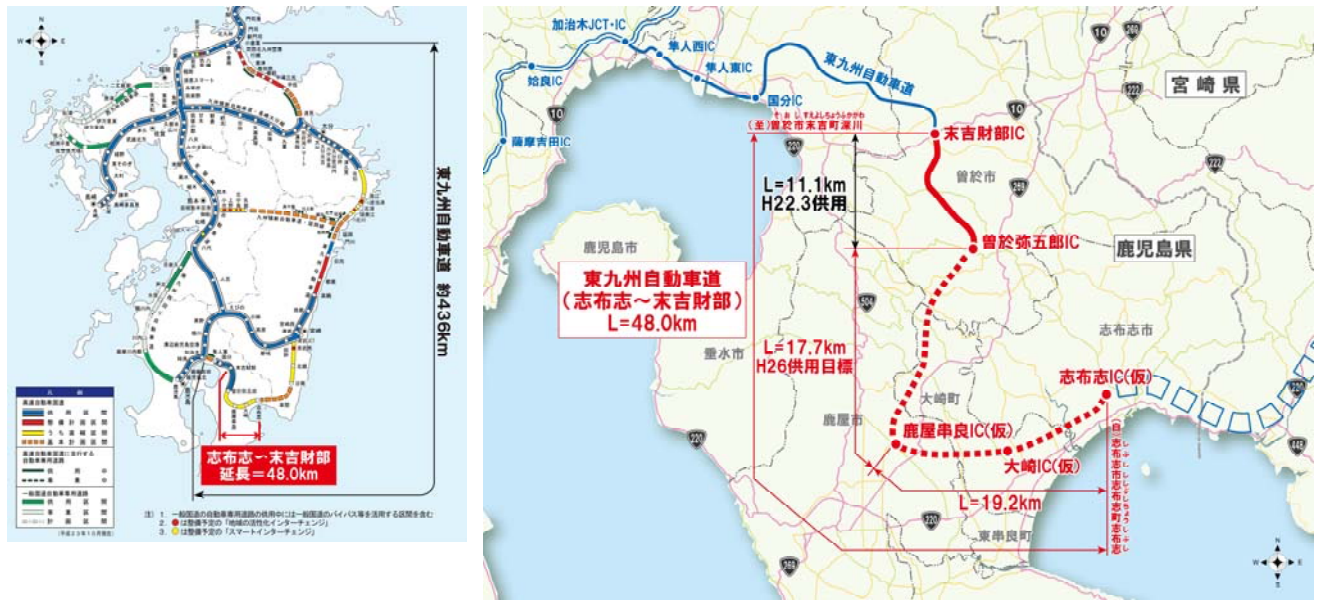
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。